

[成果情報名] 水稲の不耕起生草マルチ移植栽培における雑草抑制効果

[要約] 緑肥作物ヘアリーベッチを利用した水稲の不耕起生草マルチ移植栽培では水稲移植前の高い雑草抑制効果がみられる。水稲移植後の雑草抑制効果は連作2年目まで高い。ヒエに対する抑草効果は米ぬか30kg/a散布で高まる。

[キーワード] ヘアリーベッチ、不耕起、生草マルチ、連作、米ぬか

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・作物科

[連絡先] 電話0957-26-3330、電子メールoowaki-junichi-x@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 農産

[分類] 指導

---

[背景・ねらい]

緑肥作物ヘアリーベッチを利用した不耕起生草マルチ移植栽培は、水稲移植前の雑草抑制効果があり、雑草繁茂による水稲移植機の植え付け障害および水稲生育抑制が回避できる。また、水稲生育前期の雑草抑制効果があるが、ヒエに対しては劣る。そこで水稲移植前後の雑草抑制効果の年次推移および、米ぬか施用によるヒエ抑草効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 不耕起生草マルチ移植栽培では、4月中旬の雑草量は年次を経るごとに増加する(図1)。
2. 雑草量は4月中旬以降減少し、5月中旬から6月中旬まで殆ど無い(図1)。
3. 水稲生育前期の抑草効果は連作2年目まで高い(表1)。
4. ヒエに対する抑草効果は米ぬか30kg/a散布が高い(表1)。
5. ヒエ以外の雑草は連作3年目に多くなる(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 水稲移植後、ヒエの発生が多い場合はヒエに効果の高い中期除草剤を散布する。
2. 連作3年目は通常の栽培法にする。

[具体的データ]

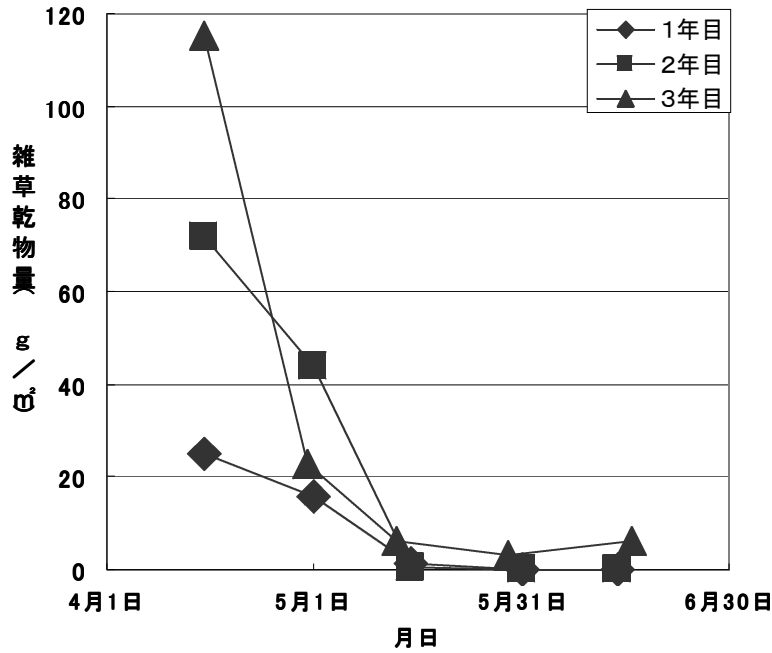


図1 水稲定植前における雑草量の年次推移

注1)ヘアリーベッチ播種日:11月20~22日

注2)ヘアリーベッチ播種量:0.4kg/a

表1 生草マルチによる雑草抑制効果(水稲移植後1月半)

年次 (連作)	区名	ノビエ (%)	タマガヤツリ (%)	タカサプロウ (%)	コウキヤガラ (%)	その他 (%)	合計 (%)	(参考) ノビエ以外の 雑草比率(%)
2001 (1)	ベッチ+米ぬか15kg	0	0	0	0	0	0	0
	ベッチ+米ぬか30kg	0	0	0	7	0	3	3
	ベッチ	0	0	0	16	0	6	6
	除草	0	0	0	20	0	8	8
	無除草(g/m²)	0.0	0.0	17.3	13.5	6.5	37.3	37.3
2002 (2)	ベッチ+米ぬか15kg	0	1	0	0	0	1	1
	ベッチ	0	7	0	0	0	7	7
	除草	0	0	0	0	0	0	0
	無除草(g/m²)	0.0	18.4	0.0	0.0	19.2	37.6	37.6
2003 (3)	ベッチ+米ぬか15kg	33	0	0	193	0	49	97
	ベッチ+米ぬか30kg	1	0	0	137	8	19	68
	ベッチ	55	0	0	95	35	69	113
	除草	0	0	0	0	4	1	2
	無除草(g/m²)	20.5	0.0	0.0	3.4	3.5	27.3	6.9

注1)調査日:2001.8.6(+46)、2002.8.5(+46)、2003.8.4(+44)

2)ヒエ種子散布:2002.11.20 1kg/a

3)無除草区は雑草乾物量、他区は無除草区に対する比率(%)

4)米ぬか散布は水稲移植1週間後、散布量は15kg/aおよび30kg/a

[その他]

研究課題名:中山間地域水田活性化のための新しい環境保全型水稲移植栽培技術の開発  
2)ヘアリーベッチ草量の推移

予算区分:県単

研究期間:2000~2004年度

研究担当者:大脇淳一、佐田利行、山中勝浩、寺井利久

発表論文等:なし